くりの図書館に来てね！

湧水町教育委員会・くりの図書館 主催

第4回 椋鳩十作品読書感想文コンクール

湧水町が舞台となった「大造じいさんとガン」「栗野岳の主」など、様々な動物文学を生み出した児童文学の巨匠・椋鳩十氏の功績を称え、第4回椋鳩十作品読書感想文コンクールを実施しました。町内各小学校から多数寄せられた感想文より、審査の結果、6名の方が受賞されました。受賞者には賞状と賞品を贈らせていただきました。ご応募ありがとうございました。

このコンクールを通じて、郷土への愛着が深められ、心豊かで、たくましい子どもたちが育ってくれることを願っています。

くりの図書館長賞

（最優秀賞）

下戸 悠太郎さん（轟小学校４年生）

「大切なだれかを守るため」

～ 受賞した感想 ～

びっくりしましたが，とてもうれしかったです。お父さん，お母さんも喜んでくれると思います。感想文は，夏休みに書きました。書くときは，栗野岳の主の気持ち，目線で考えるようにしました。読書が好きで，去年は 200 冊くらい読みました。動物について書いてある本が好きなので，これからもそんな本を読みたいです。

優秀賞

丸濱　樹林さん（吉松小学校５年生）

「『マヤの一生』が教えてくれたこと」

今田　旭太朗さん（栗野小学校６年生）

「椋鳩十が伝えたかったこと」

特　選

東　凌玖さん（幸田小学校４年生）

「金色の足あとを読んで」

今川　愛加吏さん（幸田小学校５年生）

「どんなにふりでも小さくても」

三俣　蛍人さん（轟小学校６年生）

「やせ牛と八郎とぼく」

「ビブリオバトル」ってなぁに？

「ビブリオバトル」とは,ゲーム的要素を取り入れた,新たな読書活動です。「知的書評合戦」とも呼ばれます。読書の楽しさや本の面白さを,仲間と分かち合えるという良さがあり,学校や図書館を中心に全国へ広がりを見せています。

実施方法は,参加者がおすすめの本を紹介し合い,「どの本が一番読みたくなったか」を基準に投票を行います。そして,最多票を集めた本を『チャンプ本』(優勝)とします。

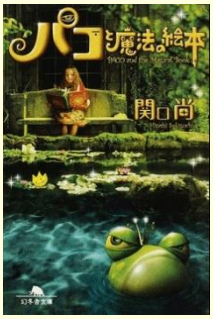
吉松中学校では,読書活動の取り組みの一環として,「ビブリオバトル」を各学年で行っています。

いっど読んみやんせ!

「私のおすすめの本」

髙城　里紗さん（吉松中学校　3年生）

～ビブリオバトル　3 年生チャンプ本～



『パコと魔法の絵本』

関口　尚･著/幻冬舎

内容：事故の後遺症により，記憶が一日しかもたない少女パコと，昨日を失ったパコの心に特別な思い出を残そうとする偏屈じじい大貴との心温まる奇跡の物語。

くりの図書館長賞の下戸 悠太郎さんの作品を掲載します。

優秀賞・特選の方々の作品は，平成２８年度「文集ゆうすい」に
掲載される予定です。ぜひご覧になってください。

大切なだれかを守るため

轟小学校　四年　下戸　悠太郎

今夜も空を見上げると、ぶどう色の星がかがやいている。そしてあの栗野岳では、やみの中で多くの動物達が、活動しているのだろう。その中には「栗野岳の主」もいるかもしれない。そう考えるとぼくのむねは不思議な気持ちでいっぱいになり、わくわくしてくる。

「栗野って書いてある。主って何だろう。」そう思って手にとった本だったが、読んでいくうちに、ぼくは、頭がよく、強くてかっこいいこのイノシシのファンになってしまった。

特に強く心にのこったのは、主が家族を守るために、十五ひきもの犬に一人で立ち向かっていく場面だ。犬達の注意を全部自分にひきつけ、かりゅうどがいるかもしれないきけんな谷間に自ら向かっていく主。案の定、待ちぶせしていたかりゅうどにじゅうを向けられた時、ぼくは「もう、だめだ。」と思った。しかしそのしゅん間、主は土けむりをたてて「みじんになれ。」と、かりゅうどにぶつかっていったのだ。かりゅうどはすきをつかれてひきがねをひけなかった。「やったあ。」ぼくは思わずガッツポーズをした。

でもきっと、この主だってこわかっただろうし、にげ出したかったと思う。ぼくは、だれかを守るために自分の命をぎせいにするなんて、考えたこともなかった。「ぼくのお父さんやお母さんなら・・・。」と、考えてすぐに「きっとぼくの両親も主のように、全力でぼくを守ってくれる。」なぜかそんなかく信がわいた。人間も動物も、大切なだれかを守りたいという気持ちは同じなのかもしれない。そう思うと、主がぐっと身近な存在に感じた。

その後、かりゅうどからはのがれたものの主は谷ぞこに落ち、ひどいけがをおう。それでもおなかをすかせた子ども達のために、しゃんと立ち上がり、家族をえさ場にみちびいていく。ぼくはこの場面が一番好きだ。ぼろぼろになりながらも、家族を守るため、気力をふりしぼり、月明かりの中をどうどうと歩く主のすがたを想像するとむねがじんとあつくなる。家族を想う深い愛情。とてつもない勇気。そしてこのいげんあるすがたが「栗野岳の主」と名付けられた理由なのだろう。

椋はと十さんの物語に出てくる動物達は知えを働かせ、家族や仲間と一生けん命生きている。ぼくはどうだろう。こうやってふつうに毎日を生きていることが当たり前だと思っていた。でもこの本を読んでそうではないのかもしれないと感じた。主は、ぼくのお父さんであり、お母さんだ。つらい時やつかれた時でもぼくのために、しゃんとして働いてくれる。家事をしてくれる。そして、ぼくもいつかは、主のようになりたい。そのために今は、家族のために自分のできるせいいっぱいのことをしていこう。そして、大切な人を守れるように、弱い自分をみがいていきたい。主よ、その栗野岳からぼくを見守っていてね。ぼくもあなたに負けないように強く生きるよ。

椋鳩十動物童話集
第４巻
「栗野岳の主（くりのがたけ　ぬし）」
小峰書房 1990 年

※作中では「くりのがたけ」と表記されています。

開館時間：午前１０時～午後６時
休館日　：毎週月曜日，祝日（こどもの日，海の日，文化の日を除く），毎月第４木曜日，
　　年末年始（12/29～1/3），特別館内整理期間　　お問合せ：74-1821